

**キリストのからだとしての召会を有機的に建造することは、  
霊的で新陳代謝的な過程を通してであり、  
内住するキリストに対する信者たちの内なる経験にしたがっている**  
聖書：サムエル下 7:12-14 前半、エペソ 3:16-21

- I. サムエル記下第 7 章 12 節から 14 節前半は、予表を通しての予言を明らかにすることであり、これが見せているのは、神がキリストをわたしたちの内面的な構成の中へと建造し込んで、わたしたちの全存在がキリストで再構成されることを、わたしたちが必要としているということです——マタイ 16:18：
- A. 神の心の願いにしたがった神の永遠のエコノミーは、ご自身を人の中へと建造し込み、人を彼の中へと建造し込むことです(エペソ 3:16-17 前半)。この相互の住まいはキリストのからだの実際であり、新エルサレムにおいて究極的に完成します(ヨハネ 15:4-5 前半、I ヨハネ 2:27-28、3:24、4:13、15-16、啓 21:3、22)。
- B. 神のエコノミーにおける神の意図は、ご自身をキリストの中で、わたしたちの存在の中へと建造し込むことです——サムエル下 7:12-14 前半、エペソ 3:17 前半、ヨハネ 14:20、ガラテヤ 4:19：
1. 神はご自身をキリストの中で、わたしたちの中へと造り込むことを願っています。キリストであるすべて、またキリストが完成したすべては、この一つの事のためです——ピリピ 2:13、エペソ 3:17 前半、コロサイ 3:10-11。
2. わたしたちが必要とするのは、神がご自身をキリストの中で、わたしたちの人性の中へと建造し込み、ご自身をキリストの中で、わたしたちの中へと造り込んで、わたしたちの命、わたしたちの性質、わたしたちのパーソンとすることです——エペソ 3:17 前半。
- II. エペソ第 3 章 16 節から 21 節が啓示しているのは、三一の神がわたしたちの中へと入って来て、ご自身を要素として、またわたしたちからのものを材料として、建造する働きを行なっているということです。これはマタイ第 13 章における種まく者のたとえによって例証されています：
- A. 主はご自身を命の種として、土壌である人の心の中へとまいています。それは、彼が彼らの中で成長し、生きて、彼らの内側から表現されるためです——マタイ 13:3。
- B. 種は土壌の中へとまかれ、土壌の栄養分をもって成長します。その結果、産物は、種と土壌の両方からの要素の構成です——23 節。

- C. わたしたちは内側に、神によって創造されたある栄養分を持っています。それは、彼がわたしたちの中へと入って来て、わたしたちの中で成長するための備えです。神は人の霊を、人の栄養分をもって創造し、それと共に人の心を土壌として創造して、神聖な種がわたしたちの内側で成長するようにしました——Iヨハネ 3:9. Iペテロ 1:23. コロサイ 2:19:
1. わたしたちがどれほど命において成長するかは、神聖な種にかかっているのではなく、わたしたちがどれほど多くの栄養分を、この種に与えるかにかかっています。わたしたちが栄養分を供給すればするほど、種はますます早く成長し、ますます繁茂します——詩 78:8. マタイ 5:3, 8:
    - a. もしわたしたちが自分の魂の中にとどまり、自分の天然の人の中にとどまっているなら、神聖な種が成長するための何の栄養分もないでしょう。しかしわたしたちが内なる人の中へと増強されるなら、またわたしたちの霊に注意を払い、わたしたちの霊を活用するなら、栄養分が供給され、キリストはわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ります——エペソ 3:16-17. ローマ 8:6. Iテモテ 4:7.
    - b. わたしたちは、主に命の種としてわたしたちの内側で成長し、わたしたちの満ち満ちた享受となっただこうとするなら、完全に主に開き、主と協力して、わたしたちの心を徹底的に対処しなければなりません——マタイ 13:3-9, 19-23.
  2. 一方で、神は要素としてのご自身をもって、わたしたちを増強します。もう一方で、わたしたちは栄養分を与えます。この二つの事を通して、神はキリストの中で、彼の内在的な建造、すなわち、彼のホームの建造を、わたしたちの全存在の中で遂行します。
- D. 聖書によれば、成長は建造と等しいのです。主イエスは、「わたしは……わたしの召会を建てる」と宣言しました(マタイ 16:18)。この建造が起こるのは、神聖な種がわたしたちの内側で成長することによってです(Iヨハネ 3:9. エペソ 4:15-16. コロサイ 2:19. エペソ 2:21-22. Iコリント 3:1, 6-9, 12. 16:13)。
- E. 神のエコノミーとは、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちが霊的な消化と吸収という新陳代謝的な過程を経験し、それが造り変えを生み出すということです。この造り変えは、わたしたちの天然の命における、漸進的で内在的な新陳代謝的な変化です。これはキリストのからだを建造して、新エルサレムを究極的に完成するためです——IIコリント 3:18:

1. 神の建造が起こるために、わたしたちは有機的な、霊なるキリストを受け、消化し、吸収する必要があります。彼は命を与える霊であり、わたしたちの霊の食物、飲み物、息です——ヨハネ 6:51, 57, 7:37-39, 20:22。
  2. わたしたちがキリストを食べ、飲み、呼吸することによって彼を享受するとき、新陳代謝的な過程、霊的な消化と新陳代謝がわたしたちの内側で起こり、キリストがわたしたちの存在の中へと構成し込まれます。この内なる新陳代謝は造り変えであり、造り変えは建造です——ローマ 12:2, ピリピ 1:20-21, 参照、啓 21:18, 4:3。
- F. 霊的な新陳代謝的な過程を通して、キリストのからだとしての召会を有機的に建造することは、実はエホバがサムエル記下第7章12節から14節前半において、予表の方法でダビデに予言したことです。
- III. エペソ第3章16節から21節でパウロが祈ったのは、内住するキリストを信者たちが内側で経験して、キリストのからだとしての召会を有機的に建造することについてでした——エペソ 4:12, 16, 2:21-22:
- A. パウロが御父に祈ったのは、わたしたちが彼の霊を通して、内なる人の中へと増強されるようにということでした。そしてその結果、キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ることができ、それによってわたしたちの内なる全存在を、ご自身をもって占有し、所有し、浸透し、飽和することができるようにということでした——3:16-17前半。
  - B. 三一の神は大きな機械にたとえることができ、パウロはそれを作動させる者でした。わたしたちは一つの学課を学ばなければなりません。その学課は、全宇宙には高い原則があるということです。この原則とは、神が何かを行なうことを願っていても、彼は「機械」にすぎず、作動させる者を必要としているということです：
    1. パウロはエペソ第3章16節から21節でその祈りをしたとき、キリストのからだ全体の代表でした。
    2. 父、子、霊は、この宇宙的な「機械」の三つの「パーツ」であり、からだは作動させる者です。わたしたちが作動させる者としてこの祈りをするとき、御父は経路としての彼の霊を通して働いて、わたしたちの内なる存在のあらゆる部分を内なる人の中へと増強します。そしてその目標、目的である御子は、わたしたちの心のあらゆる部分の内側に、ご自身のホームを造ります。
  - C. わたしたちが力をもって、内なる人の中へと増強される必要があると言う

ことは、わたしたちが内なる人の中にいないこと、大部分は外なる人の中で生きていることを示しています——エペソ 3:16, 1:19-22, 3:20。

D. キリストは、わたしたちの心のあらゆる部屋を占有するという願いを持っています：

1. 「ご自身のホームを造る」という句は、ギリシャ語ではただ一つの言葉、「カトイケオー (katoikeo)」であり、住まいに落ち着くこと、住む場所を造ることを基本的に意味し、この言葉の接頭辞、「カタ (kata)」は「下に」を意味します——17 節前半。
2. キリストがわたしたちの心の中の、下に深くご自身のホームを造るとき、わたしたちは神の農場のために、愛の中に根ざしつつあり、神の建造のために、愛の中に土台づけられつつあります——17 節。
3. 彼がわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造るとき、わたしたちは力に満たされて、すべての聖徒たちと共に、計り知れないキリストを会得します。彼の大きさ(各次元)は宇宙の大きさです——18 節：
  - a. 召会の中でのキリストに対するわたしたちの経験は、三次元、すなわち立方体(その広さ、長さ、高さ、深さ)のようであればならず、一次元、線のものであってはなりません。
  - b. 幕屋においても宮においても、至聖所は立方体でした——出 26:2-8, 列王上 6:20。
  - c. 最終的に、新エルサレム、神の建造は、永遠の立方体、すなわち至聖所であり、三つの次元(その長さ、幅と高さ)は一万二千スタディアです——啓 21:16。
4. キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ることは、わたしたちが知識を超越したキリストの愛を知るようにします。それは、わたしたちが満たされて、三一の神の全豊満へと至り、彼を団体的に表現し、彼の栄光を現すためです——エペソ 3:19-21, 参照、創 24:47, 53, 61-67。

E. キリストが召会を建てるのは、ご自身をわたしたちの中へと建造し込むことによって、すなわち、わたしたちの霊の中へと入って、わたしたちの霊からわたしたちの思い、感情、意志の中へとご自身を拡大し、わたしたちの全存在を占有することによってです——Ⅱテモテ 4:22, I コリント 6:17, エペソ 3:17 前半：

1. わたしたちの心はわたしたちの内側の各部分の総合計、すなわち、わたしたちの内側の存在の中心、わたしたちの傾向、愛情、喜び、願望に関

するわたしたちの代表ですから、キリストはわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造るとき、わたしたちの内側の全存在を制御し、内側のあらゆる部分を、ご自身をもって供給し、増強します。

2. キリストはわたしたちの内側で拡大すればするほど、ますますわたしたちの中に落ち着き、わたしたちの中にご自身のホームを造り、わたしたちの内なる存在のあらゆる部分を占有し、これらすべての部分を所有し、ご自身をもってそれを飽和します。
  3. 召会を建造することに関するマタイ第16章18節のキリストの言葉が成就されるために、召会がその中へと入らなければならない状態は、多くの聖徒たちがキリストに、彼らの心の中にご自身のホームを造っていただき、彼らの内なる全存在を所有し、占有し、飽和していただくことです。
  4. キリストがわたしたちの内なる存在を占有すればするほど、ますますわたしたちは、からだの中で他の人と共に建造されることができるようになります——エペソ2:21-22、4:12、16。
  5. エペソ第3章17節は、愛の中に根ざし土台づけられることについて語っています。わたしたちが根ざすことが示すのは、わたしたちが植物であって、成長する必要があるということです。わたしたちが土台づけられることが意味するのは、わたしたちが建造される必要があるということです。
  6. 18節によれば、わたしたちは最終的に力に満たされて、キリストの宇宙的な大きさ(その広さ、長さ、高さ、深さ)をわたしたち個人によって会得するのではなく、「すべての聖徒たちと共に」、すなわち、団体的に共に会得します。これは、わたしたちが共に建造される必要があることを啓示しています。
  7. キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造るとき、わたしたちは満たされて、神の全豊満へと至ります。この豊満は召会、キリストのからだであり、三一の神の団体的な表現です——19節。
  8. 神の栄光は召会の中へと造り込まれ、神は召会を通して、わたしたちが求め、また思うすべてを、はるかに超えて表現されます。ですから、召会の中で神の栄光が現されます——20-21節。
- F. エペソ第3章16節から21節は、パウロの霊、態度、祈り、信仰を見せています：
1. キリストの奥義は、啓示によってパウロに知らされました(エペソ

3:3-6)。ですから、彼の霊と態度(彼が見たもの、彼が言ったこと、彼が心の中で顧慮したこと)は、内住するキリストに対する内なる経験を通して、キリストのからだとしての召会を建造するというビジョンと関係がありました。

2. パウロはこのビジョンに夢中になっており、それは彼の霊と態度になりました。ですから、彼には、エペソ第3章16節から21節に記録されているような、信仰の領域と要素の中の祈りがありました。わたしたちは、キリストがどのようにして、内住するキリストに対する内なる経験を通して、キリストのからだとしての召会を建造するかについてのビジョンを見ているなら、召会の中で神に仕えるとき、パウロの霊、態度、祈り、信仰を持ちます。